

チャップリンの日本人秘書

高野虎市



チャップリン(左)と高野虎市(右)
1927年 (201622-9-1)

—「コーノ」に寄せられた期待—

令和4年

3月29日〔火〕 ▶ 6月11日〔土〕

はじめに

「世界の喜劇王」チャールズ・スペンサー・チャップリン（一八八九―一九七七）の日本人秘書として知られる高野虎市（一八八五―一九七二）は、戦後に帰国して故郷の広島で晩年を過ごし、一九七二年三月に亡くなりました。安佐郡八木村（広島市安佐南区）から十五歳でアメリカに渡った高野虎市は、一九二六年秋にチャップリンの運転手として雇われ、厚い信頼を得て一九二三年に秘書となり、「コーノ」と呼ばれ、私事に関わることでまで任されて行動を共にするようになりました。チャップリンのサイレント映画は当時日本でも大評判で、高野がその秘書であることが日本へ伝わると、高野を通じて多くの日本人がチャップリンのスタジオやハリウッド映画の舞台裏を見学するようになります。また、チャップリンが世界一周旅行の途中に日本に立ち寄るといふ報道が流れると、それを期待し、利用しようとする人々が高野のもとへ手紙を送りました。

二〇一七年に当館は、広島で余生を共に過ごした女性のご家族から、高野の秘書時代の貴重な写真や、高野に宛てられた手紙などの寄贈を受けました。没後五十二年目に当たる二〇二二年、展示を通して高野虎市が果たした役割について考えます。

一高野虎市とチャップリン

一八八五年に安佐郡八木村(現広島市安佐南区)の裕福な中流階級の家に生まれた高野虎市は、十五歳で単身、シアトルのいとこを頼って米国へ渡りました。当時の広島県は全国一の移民送出県で、特に安佐郡からの移民は県内でも群を抜いていました。

一方、一八八九年に英国のロンドンで芸人の子として生まれたチャールズ・スペンサー・チャップリンは、劇団の米国巡業でスカウトされ、一九一四年に銀幕デビューしました。短編に出演してから、ちよびひげに山高帽、だぶだぶズボンとドタ靴に小さな上着、ステッキを片手に滑稽に歩く独特のキャラクターで人気を博すようになり、一九一七年に独立してからは長編映画も監督、製作するようになりました。映画は日本でも公開され、チャップリンは映画界で一、二を争う人気者になりました。

高野はシアトルに上陸してから、雑貨店の店員や鉄道の赤帽などを経験した後、夫婦でロサンゼルスへ移り、自動車運転手をしていた一九一六年に、専属運転手を募集していたチャップリンと出会います。渡米してからすでに十六年を経過し、高野は三十一歳となっています。誠実で勤勉な高野はチャップリンからの気まぐれな要求にもよく応え、次第に信頼され、一九二一年にチャップリンの秘書となりました。



高野虎市の旅行バッグ
金文字で「T.K.」のイニシャルがある。



高等小学校時代の高野虎市
(201622-9-15)

1895年に八木にあった沼田高等小学校へ進級した。



少年時代の高野虎市
(201622-10-5)

高野虎市は、1891年4月に八木尋常小学校に入学した。学校嫌いで、「ガキ大将」的な存在であったという。



パイロット姿で飛行機の前に立つ高野虎市
(201622-15-1)

高野虎市は1914年ごろ、ロサンゼルスでパイロットを目指して飛行学校に通い、免許を取得したが、事故を起こし、妻イサミの反対にあって断念した。写真は1920年代のものと思われる。



蓋つき小物入れ
(201622-39-3)

高野虎市の遺品の一つ。蓋には、「To Mr・T・Kohno」などの英字と、山高帽にちよびひげで笑うチャップリンの似顔絵が刻印されている。

自国船		海外		旅券下付表		夕之部	
旅券番号	氏名	旅種	住所	年齢	渡航先	旅券下付	旅券有効
1511	高野虎一	兵	八木村	15	米		
1512	高野虎一	兵	八木村	15	米		

高野虎市の旅券下付表
外務省外交史料館「旅券下付表」

1900年3月23日、15歳の安佐郡八木村高野虎市に旅券が下付された(右)。渡航先は北米合衆国のワシントン州、渡航主意は農業であった。

4年後に帰国した高野は旅券をいったん返納したが、7月30日付けですぐに再取得した(左)。旅行目的は「楊弓遊戯商業」(射的場か)となっている。

最初の旅券は読みを「たかの」と誤っているが、再渡航では正しい「こうの」である。



『街の灯』のセットで談笑するチャップリン(右)、高野虎市(中)、漫画家のラルフ・バートン(左) 1927年
(201622-9-3)



素顔のチャップリンのポートレート
1920年 (201622-10-6)
高野虎市に宛てたサイン入り。



扮装したチャップリンのポートレート
1916年 (201622-10-2)
1916年12月30日、高野虎市に宛てたサイン入り。

二 高野虎市と渡米する日本人

チャップリンは高野虎市の屋敷を撮影所の一面に与え、長男スペンサーの名付け親にもなるなど、二人は親密な関係となりました。高野の働きでチャップリンは大変な日本虜となり、料理人や女中、運転手など、多いときは一七人いた使用人がすべて日本人で、広島出身者も多かったといえます。

一九二八年、チャップリンは高野に連れられてロサンゼルスで遠山満の剣劇一座の公演を観劇したところ夢中となり、これを契機に「チャップリンに認められた」一座は評判となりました。「ケンゲキ」は各地の劇場や映画館で公演を重ね、日米親善に一役買うことになりました。チャップリンは歌舞伎などにも興味を持つようになります。

気難しいチャップリンは、撮影中は誰とも面会しませんでした。松竹の監督牛原虚彦が高野を頼って来ると、スタジオで撮影中の「サーカス」への参加を許しました。牛原は帰国後に「チャップリンの弟子」と言われるようになりました。その後、城戸四郎(後の松竹社長)や三浦光男(三浦賞)に名が残るカメラマン、小笠原明峰(監督)などの映画関係者や軍人、政治家、外交官、官僚、実業家、ジャーナリストなど、多くの日本人がスタジオを見学し、チャップリンとの記念写真を送付してもらった感激を高野へ送った礼状の中で書き綴っています。



チャップリン撮影所の航空写真
1926年ごろ (201622-17-26)

ハリウッドの西方、ラ・ブレア通りとサンセット大通りが交差する南東角にチャップリンの撮影所はあった。高野はこの撮影所内の、木に囲まれた一角に屋敷を与えられた。



自邸前で長男スペンサーを抱く高野虎市と妻イサミ
1926年ごろ (201622-9-25)

チャップリンから与えられた屋敷には、かつてチャップリンの兄シドニーが住んでいた。



剣劇遠山満一座 1928年 (201622-17-22)
一座が渡米した1928年に撮影された記念写真。



遠山満夫妻・斎藤義政夫妻らとの記念写真
1928年 (201622-16-12)

中央のチャップリンの左前が遠山満夫人の小原小春。その左隣が遠山満。右端は桜井海軍大佐。右から3人目は、東京銀座の高級果物店千疋屋を営んでいた斎藤義政。チャップリンの右後ろに高野虎市。



入江譲治(遠山一座)の書簡
(201622-37-13)

ロサンゼルスでの公演でチャップリンから「お墨付き」を得た遠山満の剣劇一座は、米国西海岸を中心に公演を重ねた。「各地共に非常なる好人気」であったが、米国人には「剣劇の何物なるかよく通じて居ない為」多額の欠損が生じたという。「KEN-GEKI」のロゴ入り便箋に書かれたこの書簡で、入江はチャップリンの肝煎りで、良策を講じてほしいと高野へ依頼する。



小原小春(遠山満夫人)の礼状
(201622-35-9)

遠山満剣劇一座は渡米公演に、遠山夫人の女優小原小春を伴った。これは小原小春の帰国後の礼状。遠山は、高野のおかげでチャップリンは安心できるのだと、新聞社や来客に自分のことのように話していると書いている。

また、オイル(石油採掘)事業について「あなた様のお心がけが好いからきつと出る」と近藤(経一)夫妻が話しているとあり、高野がサイドビジネスとして石油採掘に投資していることがわかる。



竹田(南加広島県人会)の書簡
1928年 (201622-23-11)

南カリフォルニア広島県人会の竹田は「ケンゲキ」を観劇し、「日本の芸術を米国人へ御紹介下された貴兄、今回の御努力に対して御衷心感謝し敬意を払って居ります」と高野を称賛した。



ハリー牛山の礼状 (201622-35-4)

ハリー牛山(清人)は美容室などで知られるハリウッド株式会社の創始者。1917年に渡米し、ハリウッドで俳優の早川雪洲の弟子となるが、断念して、メイキャップに転身した。チャップリンや高野と知己を得た牛山夫妻は、帰国前にチャップリンからシェパード犬のパールを譲られた。船中で船員に噛みつき、苦勞したが、帰国後に座敷で可愛がったところ、なついで横浜のコンテストで2等賞を取ったという。



小笠原明峰の東郷平八郎色紙送り状(代筆) (201622-36-29)

小笠原明峰は旧唐津藩主の孫で、映画監督。牛原虚彦の紹介で渡米し、チャップリンのスタジオを見学し、高野の友人となった。この書簡によれば、小笠原は帰国後に高野から依頼され、父親を通じて、療養中の東郷平八郎から、医師から禁じられていたにもかかわらず、特別に揮毫してもらい、チャップリンへ「入神」、高野へ「寿」と書かれた色紙を送った。



牛原虚彦の礼状 1926年 (201622-33-14)

チャップリンは、高野を頼ってスタジオ見学に来た松竹キネマ蒲田撮影所の監督牛原虚彦を歓待し、傍らで『サーカス』(1928)の撮影現場を見せ、修行を許した。牛原は帰国後「チャップリンの弟子」と言われ、サイレントからトーキー黎明期の監督として著名となった。これは、帰国後に「お蔭様でチャップリン様の許であれほど深い勉強をすることが出来たこと幾重にも幾重にも深く御礼申し上げます。」と高野へ書き送った礼状。



ハリー牛山夫妻 1932年 (201622-15-5)

右からハリー牛山(清人)、チャップリン、メイ牛山(春子)、高野虎市。夫妻は1932年に来日したチャップリン・高野と再会した。



小笠原明峰と高野の家族 (201622-9-11)

右から高野の長男スペンサー、虎市、小笠原明峰、長女ユリコ、妻イサミ。



映画『サーカス』撮影現場を見学する水谷八重子と牛原虚彦ら 1926年(201622-9-31)

右から監督牛原虚彦、チャップリン、女優水谷八重子(初代)、作家水谷竹紫(八重子の義兄)、高野虎市。



藤田組の藤田一郎組長らとの記念写真 1930年 (201622-9-28)

藤田組(現フジタ)の組長藤田一郎(右から2人目)は欧米視察の途中で、高野(中央)を頼りチャップリンスタジオを見学した。一行には顧問弁護士の渡辺忠雄(右端、戦後に22代広島市長に就任、戦後も高野と親交)や、神石郡出身の貴族院議員森田福市(左から2人目)も同行した。



新聞記事「喜劇王と愛犬物語」(201622-12) チャップリンの愛犬パールと牛山夫妻の因縁について紹介した1932年の新聞記事。



給油艦神威副長神田嘉穂の礼状 (201622-34-6)

給油艦(タンカー)神威乗組員は北米での任務からの帰途、高野を通じてスタジオを見学し、チャップリンらと記念撮影した(下写真)。帰国した副長神田嘉穂は、記念写真を各2枚送付するようこの礼状で依頼している。



近藤経一書簡(右)と肖像写真(左) (201622-37-1-16-3)

肖像写真には「河野様 二四年七月羅府半年の思い出に 近藤経一」とサインがあり、近藤が1924年にロサンゼルスに滞在したことがわかる。書簡では、チャップリン映画の独占配給権を得ようとして、自分が創刊する雑誌をチャップリンが読んでいる写真を撮影して送ってもらえれば、チャップリンの宣伝にもなると主張するなど、いささか我がままな要求をする。



神威乗組員らとの記念写真 1926年 (201622-17-3)

中央に立つチャップリンの右隣が副長の神田嘉穂(中佐)。一人置いてロサンゼルス領事の大橋忠一。

三高野虎市とチャップリン来日

一九三二年二月、チャップリンは高野を伴い世界旅行に旅立ちました。日本の文化や演劇に憧れのような気持ちを抱くようになったチャップリンは、旅行の最後の目的地として高野の母国、日本を選びました。

チャップリンが来日するという噂が伝わると、映画ファンだけでなく、マスコミ、作家、ホテル経営者、営業マン、役者の卵など、チャップリンを利用しようとする人たちが、取り次いでもらおうと高野へ手紙を送りました。高野はチャップリンと一緒に広島を訪れ、故郷に錦を飾ろうと夢見ていました。

一九三二年五月十四日にチャップリンは神戸へ着きました。一足先に帰国した高野は、熱狂的歓迎をしないよう注意していたにもかかわらず、市民やマスコミは一行を追いかけまわし、東京駅ではチャップリンの兄シドニーが混雑の中で転び、危うく興奮した群衆に踏みつぶされるところでした。

その翌日に五・一五事件が起こり、犬養毅首相が暗殺されます(後にチャップリン自身も暗殺の対象となっていたことが判明する)。国内の歓迎ムードは一転して自粛となり、チャップリンも歌舞伎見物や、銀ブラなどを楽しんだだけで、来日して十九日後の六月二日には横浜を出航することになり、広島訪問の夢も潰れてしまいました。



ロサンゼルスでのチャップリンの送別会
1931年 (201622-10-9)

チャップリン(一番奥)が世界旅行で日本を訪問すると聞いて、ロサンゼルス在住の日本人は、1931年1月9日、同地「濱乃家」で送別会を催した。余興で少女歌舞伎の忠臣蔵があり、3段目刃傷の場になるとチャップリンは見入った。



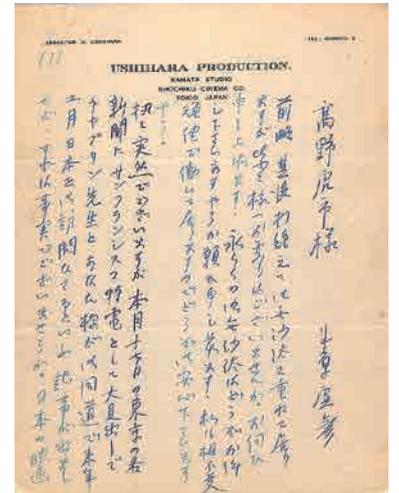
諏訪丸船上での記念写真
1932年 (201622-10-4)

1932年3月12日、チャップリン(前列中央)一行を乗せた諏訪丸はシンガポールへ向け、イタリアのナポリを出航した。前列左は塩谷三郎船長、前列右はチャップリンの兄シドニー・チャップリン、後列左は高野虎市。



大阪毎日新聞社宮崎英夫氏との記念写真
1929年 (201622-16-14)

右から高野虎市、チャップリン、宮崎英夫。



チャップリン来日の真偽を問う牛原虚彦書簡
1927年 (201622-33-10)

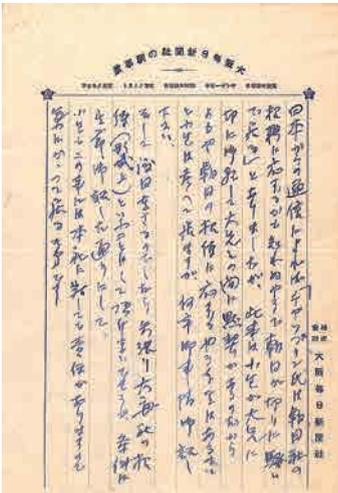
1927年10月17日付けの東京の各新聞で、チャップリンが翌年2月に高野と同道で来日するという情報が大見出しで報道されたことから、牛原は高野に書簡を出して、渡米中に受けた厚恩の万分の一でも報いる準備をするため、来日が事実であればその詳細を知らせてほしいと告げた。



来春の訪日を知らせる高野虎市書簡
1927年 (201622-33-8)

右の牛原虚彦書簡を受け取った高野虎市は、帝国飛行協会のほか、朝日新聞・毎日新聞からも招待を受けていること、まだどこからの招待も受けていないが、来春の遅い時期に日本を訪れるつもりだと知らせた。

しかし、実際にチャップリンらが来日したのはその4年後の1932年であった。



大阪毎日新聞社宮崎英夫の書簡
1930年 (201622-20-5)

大阪毎日新聞社の宮崎は渡米して、チャップリンの招待について交渉したが、難航した。帰国後、チャップリンが朝日新聞社の招へいに応じるかもしれないと耳にした宮崎は、「矢張り大毎社の招待(形式上)といふことにして頂けないでせうか」と高野へ書き送った。

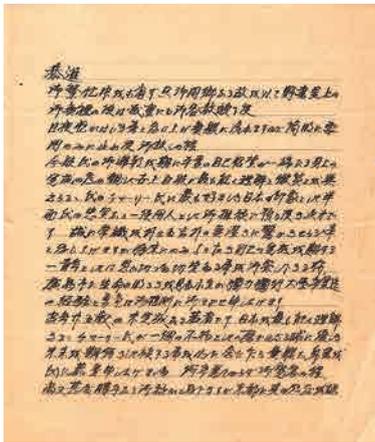
来日時のチャップリン 1932年

(右) 諏訪丸船上で「花見」(201622-15-12-2)
高野虎市(右端)、チャップリン(左端)

(中) 神戸に上陸 (201622-15-25-1)
右からシドニー・チャップリン、出迎えた女優の夏川静江、チャップリン、高野虎市

(左) 松竹社長宅の歓迎会 (201622-15-7-1)
チャップリン(中)、高野虎市(1人おいて左)





山崎博文の書簡

1932年 (201622-23-44)

広島市木挽町に住む25歳の「未完成なる若者」である山崎博文は、「優しき未来を期待させて下される事」、すなわち、来日を機に弟子入りしてアメリカへ連れ帰ってくれるよう暗に依頼する書簡を高野へ送った。



中村吉右衛門(初代)との記念写真

1932年 (201622-10-3)

5月16日には公式の歓迎会が開かれ、チャップリンは犬養毅首相と会う予定であったが、五・一五事件で中止となった。この日、チャップリンは歌舞伎座で『忠臣蔵』五段目などを観劇し、斧定九郎役の初代中村吉右衛門(左)と記念撮影をした。



チャップリンの東京到着を報じる新聞

1932年 (201622-12)

「高野虎市資料」には、チャップリンや高野に関する新聞記事などのスクラップがある。これは、午後9時20分に東京駅に到着したチャップリンを約3万人のファンが出迎えた様子を伝える「都新聞」(昭和7年5月15日付)の記事。「押し潰すな」という叫び声が上がリ、チャップリンもファンから方々を打たれて痛かったが、この熱は感謝に耐えまないと感想を述べたと報じている。



がすでんき 広島瓦斯電軌豊島愛明の書簡

1932年 (201622-27-29)

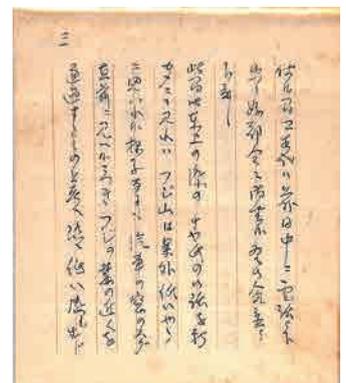
広島瓦斯電軌株式会社(現広島電鉄)の豊島愛明は、この書簡で、チャップリンと高野を招き、前年に開通したばかりの「最新式電車及連絡船」で厳島へ渡り、外国人向けの宮島ホテルか、純日本式の岩惣ホテルに宿泊するよう勧める。



京都高島屋小沢直次郎の書簡

1932年 (201622-30-7)

チャップリンの来日を聞いて、高野のもとへは国内各地から招待の手紙が多く寄せられた。京都高島屋支配人の小沢直次郎は、京都観光に合わせて、日本特産品の染織工芸品などを見ていただきたいので来店してほしいと願った。



衆議院議員荒川五郎の書簡

1932年 (201622-23-39)

広島県第1区選出の衆議院議員荒川五郎も、ハリウッドで撮影した記念写真が残る高野の友人である。

東京へ向かう列車から富士山を見て、案外低く思ったというチャップリンの感想を新聞の報道で知った荒川は、それに反論する書簡を高野へ送った。



高野虎市寄贈の警鐘台跡(広島市安佐南区)

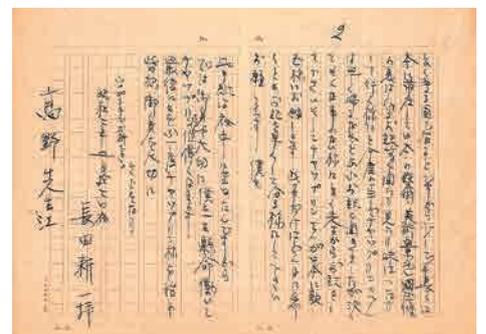
チャップリン来日に併せて帰郷した高野虎市が地元の本木村に贈った警鐘台の跡。警鐘台は1991年の台風で倒壊し、「寄付者 在米 高野虎市 昭和七年四月十二日」と刻まれた台座だけが残る。



広島を訪問した高野虎市の談話記事

1932年 (201622-12)

チャップリンより一足先に帰国した高野虎市は、広島の新報社を回って、静かにチャップリンを迎えてほしい、チャップリンと一緒に広島と厳島を訪問したいという談話を残した。



長田耕一の書簡

1932年 (201622-23-15)

16歳の勤労少年長田耕一は、五・一五事件のために、日本は野蛮な国だとチャップリンから失望されることを心配し、よい伝統を持った、芸術の発達した、景色のよい国だと親しんでもらえるよう話してほしいと、高野へ依頼した。

四別離。その後の高野虎市

チャップリンが一年半ハリウッドを留守にしていた間、映画界はサイレントからトーキーへと舵を切っていました。孤独感に苛まれる中、チャップリンが付き合っていた女優のポーレット・ゴダードは、彼の私的な事にまで口出しを始め、高野と衝突します。高野はチャップリンとの別離を決意し、一九三四年五月、チャップリンらが設立した配給会社ユニテッド・アーティスタス（ユナイト）の日本支社長として帰国しますが、日本では成功しませんでした。その後高野は映画界から離れ、さまざまな事業に手を出しますが、悉く失敗に終わりました。

一九三八年に妻イサミがロサンゼルスで亡くなった後、高野は日米親善事業に尽くしますが、一九四一年にスパイ容疑でFBIに逮捕されます。日米の軍人と懇意であったことが原因のようです。これは不起訴となりましたが、日米開戦直後に再逮捕され、以後収容所を転々します。釈放されたのは六年後で、高野は六十一歳となり、二人の子供も結婚していました。

釈放後はロサンゼルスで日系人を援助する仕事に就きましたが、日本を歩き来する間に、チャップリンの秘書時代に知り合った渡辺忠雄広島市長から紹介された女性と懇意になり、一九五七年からこの女性と広島市内で暮らすようになりました。高野が八十六歳で死去したのはこの十四年後のことです。



ソフトボール米国女子チームを率いて日本に向かう高野虎市
1938年 (201622-17-14-1)

ユナイト日本支社長辞職後、高野（前列中央）は日米親善事業に関与し、1938年秋ソフトボール米国女子チーム遠征の副団長として帰国した。前列左から2人目はチームのコーチを務めた長男スペンサー。



ユナイト日本支社長時代の高野虎市 (201622-9-29)

右から2人目は俳優の夏川大二郎、1人おいて高野虎市、山田五十鈴、深水藤枝、浜口富士子。



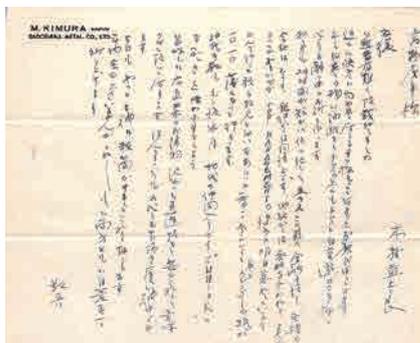
ロサンゼルスでの最後の家族写真
1955年 (201622-15-15-1)

高野（中央）の左後ろが長男スペンサー夫妻、右後ろが長女ユリコ・ナダオカ夫妻。



よどがわながはる
淀川長治との記念写真 1953年 (201622-15-35)

釈放後、ツールレイクのディフェンス・コミティーで働いていた高野を、映画評論家の淀川長治（左）が訪れ、チャップリンのことなどについて取材を受けた。



きむらますたろう
佐渡島金属の木村益太良の礼状 1961年 (201622-21-8)

大阪の佐渡島金属の木村益太良は1955年に海外出張した帰途、ロサンゼルスのホテルで倒れた際に病院を手配し、看病してくれた高野の恩を忘れず、その後も交流を続けた。これは、高野が広島菜を送ったことへの礼状。高野はこの頃、脳梗塞を発して入院中であったため、この書簡は病院へ届けられた。



高野虎市の遺品 高野虎市文書(199807-39-42)

前列は左から、カメラの三脚（ケース入り）、名刺入れ、小切手帳（「TORAICHI KONO」の金文字入り）、シガレットケース（「T.KONO」の金文字入り）、靴ペラ。2列目は二つ折り財布、懐中時計、小物トレイ。3列目はカメラ、眼鏡ケース。奥は3面折り畳み写真立て。

高野虎市とチャップリン年譜

高野虎市	歳	西暦 (和暦)	歳	チャーリー・チャップリン
広島県安佐郡八木村の裕福な中流階級で誕生。	0	1885 (明治18)		
		1889 (明治22)	0	英国ロンドンで芸人の子として誕生。
		1894 (明治27)	5	母の代りに初舞台。
旅券を下付され、単身ユートピア号でシアトル上陸。	15	1900 (明治33)		
帰国して旅券を返納 (再取得し、翌年再渡米)。	19	1904 (明治37)		
自動車工学を学んだ後、運転手などを務める。	23	1908 (明治41)	19	英国のフレッド・カーノー劇団と契約。
		1910 (明治43)	21	カーノー劇団のニューヨーク公演で米国初舞台。
通訳としてミネソタ号で一時帰国。	26	1911 (明治44)		
父兵右衛門死去。安崎イサミと結婚。戸主となる。	28	1913 (大正2)	24	2度目の米国巡業でキーストン映画社と契約。
家督相続。土地の大部分を売却し、夫婦でロサンゼルスへ移住。飛行学校へ入学。その後運転手に戻る。	29	1914 (大正3)	25	初主演映画『成功争ひ』公開。始めて「小さな放浪者」扮装を披露。以降30を越す作品に出演し、監督も。
		1915 (大正4)	26	エッサネイ社と契約し、翌年迄16作品に監督・主演。
チャップリンと出会い、運転手となる (週給30ドル)。	31	1916 (大正5)	27	ミュージカル社と当時の最高額で契約。『消防士』、『質屋』、『移民』、『冒険』など12作品に監督・主演。
チャップリンの『冒険』に運転手役で出演。	32	1917 (大正6)	28	
		1918 (大正7)	29	独立。チャップリン撮影所完成。『犬の生活』、『担へ銃』など公開。ミルドレッド・ハリスと結婚 (1920年離婚)。
長男スペンサー誕生。チャップリン撮影所に居住。	34	1919 (大正8)	30	『サニーサイド』など公開。D. フェアバンクスらと配給会社ユナイテッド・アーティスツ設立。
長女ユリコ誕生。チャップリンの秘書に昇格。	36	1921 (大正10)	32	『キッド』、『のらくら』公開。ロンドン訪問。
		1923 (大正12)	34	『巴里の女性』(監督のみ) 公開。
		1924 (大正13)	35	リタ・グレイと結婚 (1927年離婚)。
		1925 (大正14)	36	『黄金狂時代』公開。革靴を食べるシーンが話題。
渡米した牛原虚彦を『サーカス』撮影中のチャップリンに紹介。以後高野を頼り、多数の日本人が見学。	41	1926 (昭和元)	37	高野と實川延十郎一座の「大阪歌舞伎」ロサンゼルス公演を観劇。
チャップリンを伴い、遠山満の剣劇一座を観劇。	43	1928 (昭和3)	39	『サーカス』公開。
チャップリンと世界旅行に出発。ヨーロッパ各地とアフリカのアルジェを来訪。	46	1931 (昭和6)	42	『街の灯』公開。高野と世界旅行に出発。ヨーロッパ各地とアフリカのアルジェを来訪。
チャップリンより前に帰国し、故郷の八木に警鐘台を寄贈。来日したチャップリンに同行し、皇居を遥拝させる。	47	1932 (昭和7)	43	来日 (神戸着)。東京で皇居遥拝。五・一五事件の標的となるが逃れる。日本では相撲・歌舞伎などを楽しむ。ハリウッドへ帰り、ポーレット・ゴダードと出会う。
チャップリン撮影所を辞任。日本へ帰国し、ユナイテッド・アーティスツ (ユナイト) 日本支社長となる。	49	1934 (昭和9)		
渡米し、チャップリンから旧作の日本配給権を獲得。	50	1935 (昭和10)		
		1936 (昭和11)	47	『モダン・タイムス』公開。ポーレット・ゴダードとともに2度目・3度目の来日 (1961年に最後の来日)。
妻イサミがロサンゼルスで死去。米国の女子ソフトボールチームを率いて、息子のスペンサーと帰国。	53	1938 (昭和13)		
		1940 (昭和15)	51	初のトーキー作品『独裁者』公開。
「スパイ容疑」で逮捕。釈放後日米開戦により再逮捕。	56	1941 (昭和16)		
		1942 (昭和17)	53	ウーナ・オニールと結婚。
仮釈放。翌年に釈放が正式決定し、ツールレイク・ディフェンス・コミッティーの専従職員として勤務。	62	1947 (昭和22)	58	『殺人狂時代』公開。
1953年、訪ねてきた淀川長治の取材を受ける。1955年、ロサンゼルスホテルで木村益太良を救う。		1952 (昭和27)	63	『ライムライト』公開。ロンドンに向かう途中、米国から事実上の国外追放命令。翌年スイスに移住。
帰国。以後日米間を往来し、1960年から広島に定住。	71	1956 (昭和31)		
渡辺忠雄広島市長の紹介で女性と出会い、暮らす。	72	1957 (昭和32)	68	『ニューヨークの王様』公開。
		1967 (昭和42)	78	最後の作品『伯爵夫人』(カラー) 公開。
通院していた広島の病院で死去。	86	1971 (昭和46)		
		1972 (昭和47)	83	アカデミー賞特別賞を受賞し、20年ぶりに渡米。
		1977 (昭和52)	88	スイスの自宅で死去。

広島県立文書館収蔵文書展

チャップリンの日本人秘書高野虎市 - 「コーノ」に寄せられた期待 -

発行 令和4年(2022)3月29日

編集・発行 広島県立文書館(担当 西村 晃)

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47

TEL (082) 245-8444 FAX (082) 245-4541

E-mail: monjokan@pref.hiroshima.lg.jp

印刷 株式会社 沼田総合印刷

* 期間中、展示史料の入れ替え等を行うことがあります。また図録にはない展示資料もあります。

【主な参考文献】

「チャップリンの影法師」①～⑫(1997年『中国新聞』連載)

大野裕之『チャップリンの影 日本人秘書高野虎市』(2009年、講談社)

『チャップリン自伝』(2冊、新潮文庫、2017～2018年)